

**大激戦**  
**沖縄報告**

# 誇りかけデニー勝利へ燃える

## 本土から続々支援 心ひとつに大奮闘



朝立ち宣伝で支持を訴える玉城デニー候補。写真左と支援に駆けつけた大阪・交野市の人たち。右

文字通りの歴史的たたかい・沖縄県知事選。私（近畿ブロック事務局長・林信一郎）が那覇市に入ったのは告示前日の12日、1週間近くたちました。今年、沖縄の日差しは特に強い。ハンドマイク、ビラまき、5分もたてば汗ビシヨリです。

私の知事選支援は前回に続き2回目ですが、激しさ、厳しさ、そして意義の大きさを実感しています。そして翁長さんを追悼する思いの深さ、後継者・デニーさんへの切羽詰まって期待を感じます。

到着の翌朝、公園で体操をしていた人に「知事選どうですか」と尋ねると、「前やっていた人が立派だったから」とデニー支持と答えました。他の人に「本土から来ました。デニーさん頼みます」というと「お願いするのはこっちだ。絶対に勝ってくれん」とと繰り返されました。ハンドマイク宣伝していたら、高級車に乗っていた人が「こっちに來い」と手招きするので、叱られるのかと恐る恐る行くとお茶を差し入れ、激励された一こんな例は山ほどあります。

●**辺野古新基地反対 7割** 同時に、前回たびたび有権者から聞かされた「大丈夫だよ」という声は全く出ません。「今度は接戦だから頑張らないと勝てない」という激励もあります。昨日（17日）の琉球新報の世論調査の見出しは「玉城、佐喜真氏が接戦 投票先未定多く」でした。実際、街頭でも投票先を決めかねているという雰囲気を感じます。

世論調査では、「重視する政策」は基地問題が41.6%で最高、普天間基地の辺野古移設ノーが69%（県外28.1、国外21.2、普天間の無条件閉鎖・撤去19.7）で辺野古移設は17.1%、翁長県政には「高く評価」が51.9%、「どちらかと言えば評価」の23.8%、合わせて75.7%でした。「争点は新基地」、「翁長知事の遺志を継ぐデニーさん」を徹底すれば勝てることが示されています。

●**締め付け、争点隠し、期日前投票** だから相手は必死です。権力丸抱え、企業・団体締め付け、期日前投票など徹底的な組織戦。争点隠し、そしてデマ。「翁長さんの後継者は佐喜真」と言う、一方で「沖縄の遅れ」を翁長さんのせいにする。「辺野古が埋め立てられるのは翁長に力がなかったからだ」という声も聞きました。

組織戦で先行する相手を序盤で逆転をと「3日間作戦」（15～17日）に取り組みました。私が活動しているのは浦添市に接する那覇市最北部、昨年市議選の7つ目の議席一宮里昇さんの地域。2万世帯、有権者5万人の広大な地域です。連日、本土からボランティアが駆けつけ、昨日は大阪・交野から藤田まり市議ら3人がさっそくハンドマイク宣伝してくれました。「3日間作戦」で目標の音の宣伝150回をやり遂げ、打って出れば驚くような反応があることもつかめました。しかし有権者に浸透するにはスピードも規模もとても足りません。結びつきの支持拡大、現地へのボランティアなど大きな支援が必要です。

●**逆戻りは許さない** 告示日、那覇での第一声で翁長知事の次男・雄治さんは「戦後直後50%だった基地経済への依存はいまや5%。新基地建設で逆戻りは許されない」と訴えました。そしてデニーさんは「ウチナンチュには国の交付金に頼らなくても経済を発展させる力がある」と県民の誇りと力を高らかに語りました。新基地ノー、「誇りある豊かさを」。県民の誇りがかかったたたかいです。（近畿ブロック事務局長・林信一郎）

**18年近畿ブロック事務所ニュース**  
Tel06(6975)9111 Fax06(6975)9115  
【府県・地区・地方議員御中】

No. 39(2018.9.18)